

〔血液内科〕

研修の特徴と内容

【特徴】

当科では、白血病、悪性リンパ腫などの造血器悪性疾患（一部の固形腫瘍を含む）に対する化学療法、末梢血幹細胞移植、骨髄移植、臍帯血移植、HLA半合致移植などの造血幹細胞移植を中心に、貧血なども含め血液疾患全般の診療を行っています。また、DIC、血小板減少性紫斑病、凝固因子欠乏症などの出血性疾患およびATIII、プロテインC、S欠乏症などの血栓性疾患、HIV/AIDSの診断・治療も行っており、これらを通して全人的な内科診療を行っています。特に造血幹細胞移植や血友病診療においては全国でも有数の施設であり、血液内科領域での最先端医療を行っています。またHIV感染症については、兵庫県の中核拠点病院として専門的に診療を行っています。診療の多様化、複雑化に対応するために、医師、看護師、薬剤師、移植コーディネーター、リハビリテーション療法士、歯科衛生士、メディカルアシスタント等多職種による包括的チーム医療を実践しています。専門化しすぎていると思われがちですが、血液以外の内科での応用範囲は広く、幅広い研修を行うことができます。

【内容】

① 一般目標（GIO）

血液疾患全般における診断、治療の選択肢を提示する為に、専門的知識と技術を理解し、血液疾患の治療を通して全人的対応の出来る診療能力を修得する。

② 行動目標（SBO）

1. 骨髄所見を判読できる。
2. 血液疾患全般における診断を行い、治療計画を立案できる。
3. 基本手技として骨髄穿刺、骨髄生検、中心静脈カテーテル挿入ができる。
4. 抗癌剤を用いた化学療法を実施できる。
5. 造血幹細胞移植が実施できる。
6. 無菌室での治療が実施できる。
7. 輸血療法の適応を判断できる。
8. 免疫不全状態での感染症対策が立案できる。
9. 移植片対宿主病など造血幹細胞移植合併症の診断、治療が実施できる。
10. 血栓性疾患に対する抗血栓療法が実施できる。
11. 出血性疾患に対する止血治療が実施できる。
12. HIV感染症の治療ガイドラインを説明できる。
13. 関連する他職種、他部門スタッフと良好な連携をとることができる。
14. 患者や家族に適切な説明ができる。
15. 心理、社会的ケアを実施できる。
16. 終末期医療、緩和ケアを実施できる。

③ 研修内容（方略）（LS）

LS1 : On the job training(OJT)

1. 指導医、上級医のもとで入院患者を診療し、臨床実習学生を指導する。
2. 外来診療の助手を務める。
3. 回診に参加する。

LS2：カンファレンス

1. 幹細胞移植症例検討会

受け持ち患者の症例呈示、診断、治療経過の検討を行う。

2. 骨髄標本検討会

検査技師、医師供覧での骨髄標本の検討に参加する。

3. 血友病/HIVケースカンファレンス

血友病、HIV症例の治療経過の検討に参加する。

4. 血液内科医局会

抄読会、研究報告などで最新の知見を学習する。

LS3：学会、研究会への参加

④ 教育に関する行事

内科（内科全体）

月 17:30～ 内科合同カンファレンス（第2、4週）：症例検討、医療講演

血液内科

月、金 17:00～ 幹細胞移植症例検討会

水 15:00～ 教授回診、16:00～ 医局会（症例検討、論文抄読、研究報告等）

木 17:00～ 血友病/HIVケースカンファレンス（第1週）

⑤ 研修評価（EV）

基本的にEPOCで評価する。

指導医等

主任教授：小川 啓恭

臨床准教授：大杉 夕子

講師：日笠 聡

講師：玉置 広哉

講師：岡田 昌也

講師：池亀 和博

助教：澤田 暁宏

助教：徳川 多津子

助教：海田 勝仁

助教：井上 貴之

研修実施責任者

助教：澤田 暁宏

血液内科 週間予定表

	午 前	午 後	症例検討会	備 考
月			17 : 30～ 内科合同カンファレンス (第 2、4 週) 17 : 00～ 幹細胞移植症例検討会 (11E)	
火				
水	9 : 00～ 外来業務	15 : 00～16 : 00 血液内科回診 (11E、10-6)	16 : 00～ 血液内科症例検討会 (8-8CR)	17 : 00～ 血液内科医局会 (8-8CR)
木	9 : 00～ 外来業務		17 : 00～ 血友病/H I V症例検討会 (第 1 週) (8-8CR)	
金	9:00～ 骨髄採取		17 : 00～ 幹細胞移植症例検討会 (11E)	
土				